

「日本経済史」研究を志す 学生諸君へ

学問としての「日本経済史」は、明治30年代を画期として誕生して、今や百余年の歴史を重ねております。そして考古学が取り扱う古代から、中世、近世、近代、現代、に至るまで、数万点余の膨大な研究蓄積が行われた上で、諸君がこれから学ぶであろう通説・通史の類が形成されております。

新入生の段階では、高度な専門的文献を、予備知識なく継続することは、奨められませんので、まずは経済史的通史の類を入手、体系的に読み進めていくことが肝要であります。

その際、良い手びきとなるのは、以下に紹介する文献です。ともに本学図書館に架蔵されておりますので、御一読下さい。

- 日本近世経済史
- 日本近代経済史
- 日本近世農業史

富澤 一弘 (とみざわ かずひろ)



東京都出身。平成7年度、本学着任。教授、博士。専門は、「日本経済史」、「日本史学」。著書・論文多数(主要業績は、本学図書館に架蔵)。

- 一 五味文彦他編『土地所有史』、平成13年、山川出版社。
- 二 桜井英治他編『流通経済史』、平成14年、山川出版社。

これら名著のどの部分を御読みになられても、日本全史に占める経済史の比重の大きさに、改めて驚かされるはずです。ノート、辞典類を座右に、読み進めて下さい。これら教養の土台の上に、学部水準の研究の道は、開かれていくことでしょう。

なお私が特に専門とするのは、近世－近代の経済史であります。古代より、近現代まで、深い関心を有しております。諸君が「日本経済史」に興味を御持ちになられ、より一層、深く学びたい、と御考えになられますならば、御遠慮なく、研究室を御訪ねて下さい。必要とされる知識、文献について、御助言致します。